

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の中可能な限り自立して暮らせるように支援致します 地域社会の一員として安心と尊厳のある生活を支援致します の理念のもと支援をしている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営会議前に読み上げ、確認と共有を行い、実践している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や地域運営推進会議などで理念を確認してもらい事業所の取り組みを理解して頂き協力を得ている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔や名前を覚えて頂き、校区である行事などのお誘いをうけられるようになり、また施設と合同で催しをして頂けるようになった。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会などから夏祭りや、運動会等のお誘いがありテント内に席の準備をして頂き、近所の幼稚園の運動会に参加させていただいている。また、町内会と合同での餅つき大会が恒例となった。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の学校の職場体験、実習生や研修生などの受け入れを積極的に行い、地域の暮らしに役立てられる支援を行い、また、地域の高齢者が相談に来られた際は、的確なアドバイスをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘を受けた課題について運営会議等で検討の上、食事に関し、同じ食事を共に食べられるようにし、また少しずつではあるが、センター方式の更新や記載も行っている また、環境整備係りの中に飼育も入れ、メダカや金魚の飼育にも取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価を受けた改善点などを発表し、取り組みについて多種多様な意見を頂いている。頂いた意見は、運営会議で職員全員に述べ、サービスの向上に繋げている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	夏祭りに参加して頂き、親睦が深められるようになり、またメダカの飼育法や情報も時々来所して頂き教えて頂いている		運営推進会議では、包括支援センターの方には参加して頂けているが、役所の介護サービス課にも案内状をお持ちし参加頂けるよう取り組んだ結果、参加して頂けるようになった
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度の研修に参加し家族会や、必要な方に説明している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席し運営会議等で話し合い、虐待防止に努めている。また、管理者や、リーダーも職場内で虐待が無いが常に注意をはらっている。		入居者やスタッフが過ごし易い雰囲気作りに努め、ストレスの軽減をはかり虐待防止に努めている。また、スタッフのストレス発散の場を設け親睦も深めるようにしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に見学を行い十分な説明をし、不安や疑問点などの質問にお応えし納得して頂いた上、適したホームかどうか検討して頂いた上で、契約をして頂いている。契約の際は重要事項や重度化した場合の対応指針についての説明も必ず行っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者からの要望や意見は尊重できるように、会議等で検討し反映につなげている。また、運営推進会議などで、家族から本人の好む事などを伝えられ、外部からの情報をもとに利用者が好んでできる事を実践できるように反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、家族に日々の生活の中で撮った写真付きのお便りを送付している。健康状態や、暮らしぶり、行事予定を記載している。面会時にも生活の様子など報告を行い、変化があれば電話連絡もしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情ボックスを設け、苦情が出た際には迅速に解決できるようにしている。また、家族会などで意見が吸い上げられるようにし、それに基づき適した対応ができるようにしている。また、地域運営推進会議などで報告、相談をもちかけ運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月運営会議に代表者も参加し、職員の意見や提案を吸い上げよりよい運営に反映できるよう取り組んでいる。</p>		<p>運営会議のやり方、進め方の工夫によりもっと職員からの発言や意見が出せるように努めていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日頃から余裕のある人員配備をしており、受診等の付添いの要望があれば柔軟に対応できるようにしている。また、行事などで職員が必要であれば、勤務の調整を行い、確保できるよう努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃より、代表者自ら出入りし、職員への配慮を行い離職や移動を避けられるよう常に働きやすい環境に取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用については、年齢や性別で採用対象から排除していない。事業所で働く職員についても得意分野を発揮できるよう配慮を行い、いきいきと勤務できる環境づくりを行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>代表者や、管理者は年に一度、市民センターで開催される人権学習に参加し、運営会議などで資料を配布し研修報告を行い、学習の場を設けている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践者研修や、他外部研修に参加できるようにし、ケアの向上に努め、また、事業所内独自で危険予測などの学習も行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し、勉強会や研修等に参加しながら交流を深めている。研修等で知り合えた同業者とも、横の繋がりが広げられるよう親交を深めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>行事の後には施設全体で打ち上げを行ったり、ストレスを軽減できる様に細かく悩みを打ち明けられる工夫は行っている。また、事業所内や、各ユニットごとの親睦会も行い、ストレス解消に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>代表者自らが運営会議に参加し、スタッフ一人ひとりの意見を吸い上げ、働きやすいホーム作りに取り組んでいる。スタッフの特性を見極め、向上に繋がられる研修参加の機会も設け、向上心をもって働けるように努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日常生活の中で、利用者本人からの言葉を聞き入れ求められる事を受け止め、出来る限り叶えられるよう努めている。また、意志疎通が困難な方への気配りも怠らず体調変化の気づきにも繋がっている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の面会の際には、職員から声かけし不安や、困っている事があれば聞かせて頂けるようにしている。また、ケアプラン更新時にも尋ねるサービスに繋がられるようにしている。遠方の家族にはお便りとは別に電話連絡し、日常生活状況の報告もしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況、状態に応じて最良のサービスが活用、及び支援できるように本人また家族とよく話し合い、検討の上、訪問マッサージや訪問理美容などの外聞からのサービスを受けられるよう対処している。また、疾病に応じて将来必要とされるサービスについての話もしている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や、宿泊体験を通じて雰囲気を感じて頂き本人や家族が納得して利用できるようにし、サービスも本人や、家族の希望からケアプランを作成し、必要に応じてケアプランの更新に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と行動を共にし、畑作りから苗植えまで、携わってこられた方々に職員が教えていただきながら植物の生育を楽しみ、また、野菜を一緒に切りながら、職員に切り方の伝授もして頂いている。個人個人の特技を活かして共に出来る環境作りを目指している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出レクや、施設での行事には必ず報告し、一緒に外出したり催しに一緒に参加していただけるよう配慮を行っている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族とで職員と会話をする時間があり、家族に本人がどんな方だったか等お尋ねし、関係の理解を深めている。また、行事や外出と一緒に参加される事でよりよい関係を築いて頂けるよう支援に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのあるご友人や、親戚などが尋ねてこられた際は、個人情報など考慮し、家族に確認し、了承を得てから関係が途切れないようお通しできるようにしている。また、馴染まれている場所や自宅など家族と話し合いを設け、家族とその場所に行っていたり、外泊なども検討し、外泊等できよう支援に努めている。		馴染みの場所など聞きだせているが、遠方だったり、外国であったりと、お連れすることができない場所の方は、思い出話だけとなっている。その場所に関係する写真や物を家族に相談し、部屋に飾って頂けるように工夫をしていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格を見極め、会話が弾み易くなるように食事の席などを工夫しながら利用者同士が関われるよう支援に努めている。また、協同作業をして頂ける環境を作り、より信頼関係が築かれる工夫も行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も不明な点や、相談があれば気軽にホームに来て頂いたり電話をして頂けるよう関係作りを行っている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で、暮らし方の希望や、要望にお応えできるようにしている。野球観戦や、音楽演奏会に行きたいと希望が出た際は少人数ずつお連れしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約の際に、現在使用されている部屋とあまり変化の無いように馴染みのある物や、馴染みのあるタンス等持ち込んで頂き設置をお願いしている。また、これまでの生活環境やサービス利用等も家族や担当ケアマネと共に担当者会議を行い把握に努めている。		高齢の家族や家をそのままにしておきたいという家族がおり、必要最小限の荷物しか持ってこられないところがあり、もっと個人の特徴を活かした生活空間作りを行いたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員がケアプランに添って統一したサービスを行い、状態の変化を見逃さないように記録を残し総合的に把握するように努めている。また見直しを行いながらより良いケアプランが作成できるよう日々現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファやモニタリングで職員全員が意見を述べ合い、介護計画を作成している。また、医師や家族、本人からの意見や要望が出た際には職員に報告し、意見やアイデアを反映し介護計画作成に繋げている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や状態変化などにより見直しを迅速に行い、家族や医師等と話し合いをもち、本人がより良く現状に即した計画作成を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケアの実践を行う中で、気づきがあれば報告や申し送りノートへの記入、個別記録への記入にて介護計画の見直しを行っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況や家族の状況に応じ個別的に必要な訪問マッサージの活用、訪問理美容の活用への支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の必要性に応じて地域の公民館から音楽やダンスの方に来て頂き、楽器の演奏会やフラダンス等を楽しんで頂けるよう協力を得ている。防災関係者等とも協力しながら支援している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要性に応じて他のサービス事業者に相談をし、訪問看護師や、訪問マッサージ等のサービスを受けられるよう支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括の方には、地域運営推進会議に毎回参加頂き、権利擁護などの資料も提供して頂いている。また、相談があればいつでも相談に応じますとお言葉を頂いている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望される医療機関を利用して頂き、医療機関との関係は築いている。また、協力医療機関との連携により適切な医療が受けられるよう支援もしている		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医と提携しており、利用者が安心して診療を受けられるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員と常にお一人おひとりの状態観察を行い状態に応じて医師に相談活用の支援に努めている。また、必要に応じて近隣の病院関係者にも相談し、医療活用を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院が決まった際には、本人のフェースシートをもとに担当看護師や担当医に申し送りをを行い、安心して過ごして頂けるようにしている。また、病院関係者からの退院の相談があれば、早期退院に向け準備できるようにしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約と同時に重度化した場合の説明の上、同意書を頂いている。また、終末期(看取りケア)のあり方についてかかりつけ医の判断のもと早い段階から医師、看護師、家族、職員と話し合いを行いケアに取り組んでいる。職員間で細かくカンファレンスも開きケアの統一、共有に努めている</p>		<p>看取りケアの指針について足りない所を検討し、肉付けを行いまた、職員に看取りケアについてのアンケートを取り全員で共有できるように取り組んでいる</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族に重度、終末期と医師から伝える際、事業所での医療行為の現状の説明を行った上、家族からの要望を聞き、終末期を事業所で過ごす決められた際は、家族、協力医療機関、看護職員、職員とチームケアもと本人への支援に取り組んでいる</p>		<p>今後に備え、職員にアンケートをや、カンファレンスを実施し看取りケアへの向上にできるよう努めている。また、チームケアとはと職員の意見を聞きチームとしての向上にも努めている。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移り変わられる施設からの相談や連絡がある際には、来所して頂き、生活状況や、居室の間取りなどを確認して環境をできるだけ変えないようにしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は常に利用者に対しその時々で適切な言葉使いで対応している。また、個人個人の人格や性格を尊重しその方、その方を損ねるような対応をしないように心掛けている。個人情報に関する記録等は事務所で管理し鍵をかけ、守秘義務を徹底している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の能力に応じた声かけを行い、希望の表出や自己決定できる支援に努め、利用者が納得しながら生活できるよう支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で決断せず、利用者の意見を尊重し、お一人おひとりのペースに合わせ支援に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容について本人の行き付けの店がある方は家族にお連れして頂いている。また、入浴や更衣の際は本人と職員とで、洋服を選んで更衣を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のカットなど職員と利用者と一緒にいたり、畑と一緒にできた野菜を採りに行ったりして準備している。個人個人の能力にあわせた調理器具の選択も工夫し力を活かせるように支援している。		野菜のカットなどは職員と共にして頂いているが、調理はほぼ、職員が行っている。焼いたり、炒めたりという作業も一緒に実践できるよう取り組んでいきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調に応じて量や本数を決め適度に楽しんで頂けるように支援している。また、それにより体調に異変が出た際には、医師や看護師、家族に相談の上、指示があれば量の調整などを行っている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パターンシートを活用し、排泄の把握に努め、トイレの声かけや誘導が必要な方には、個人の間隔に沿って声かけや誘導を行い、失敗の軽減に努めている。布パンツで過ごして頂けるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の楽しみの中に、一年を通じて季節ごとの菖蒲湯や、柚子風呂、薔薇風呂を実施している。本人の希望に応じて大浴場や、個室で対応できるようにしている。特に時間や曜日の制限はしていないが、職員勤務体制の都合上、午後8時までとお願いしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時、その時の体調や生活習慣に応じいつでも休息できるように支援している。また、気候により、室温調整や遮光の調整を行い、快適に過ごして頂けるよう環境整備も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴に応じてその方、その方が経験されてこられた事を、役割をもって活かして頂けるよう支援している。また、得意分野を活かせる環境作りも行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理がある程度可能な方には、家族と相談し所持して頂き、私物購入の際には一緒に買物に出掛けられるようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や、外出希望が出た際には、近くの公園まで散歩に出掛けている。お一人だけでなく、他利用者にも声かけを行い、希望される方も一緒に行けるよう支援している。また、可能な限り、買物も一緒に行ったりしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人で行きたい場所があれば家族にお連れして頂いている。また、バスハイクなどを利用し家族にも案内し希望があれば一緒に出掛けられる支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと要望があれば、すぐにお電話をして頂けるように支援している。また、家族と本人の持込で携帯電話でのやり取りをされる方もおられる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個人情報の守秘義務があり、家族へ了解を得てから知人や馴染みのあるご友人をお通しし、なるべく居心地の良い時間を過ごして頂くように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の入口に、身体拘束排除宣言を提示し身体拘束ゼロを目指している。		運営会議や勉強会などで、職員全員で身体拘束について再度学習し、継続して拘束ゼロを行っていきたい
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りができる体制の時は玄関以外の鍵はかけないようにしている。ベランダ等自由に出入りができ両ユニット間行き来できるようにしている。		家族会でセキュリティーの開錠の取り組みに関し家族の意見を吸い上げるが、周辺の交通量が多く危険が高いとの意見が多くセキュリティー解除までの理解は得られていない。今後も開錠が進められるよう検討を続けていきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の意志を尊重しながら所在確認や様子観察をさりげなく行っている。また夜間では、転倒、転落が無いように定期的に巡視を実施している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のある方は、必要に応じて家族に相談し、体に害するようなものだけは、お預かりしたり、家族に持ち帰って頂いたりし、安全に生活できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険予測などの学習を実施している。転倒防止等の事故防止に繋げている。他、誤薬を防ぐ為、服薬時は職員間で日にちと、本人の名前等、声に出して確認し合ってから行っている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の症状の特徴について記載している資料があり、職員が閲覧し即、適切な対応ができる様取り組んでいる。また、救命講習の日程表を事務所に貼り出し、職員の都合に合わせて講習を受けられるように行っている。避難訓練をした際には、応急手当や初期対応に関する訓練を消防署に来て頂き教えて頂いている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上は、火災や地震を想定した避難訓練を行っている。夜間での訓練は、避難経路を使っての避難と避難器具を実際に使っての避難訓練を行っている。校区の避難訓練に参加し、町内の方と一緒に避難場所まで付き添って頂いたりしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	本人の心身状態において起こりうるリスクをケアプランの説明の際に必要なに応じ説明している。ホーム内を自由に行動して頂けるよう、遠くからでもできる限り見守りを行い、安全にかつ、抑圧のないよう配慮している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、定時にバイタルチェックを行い、日々の生活の中体調の変化や訴えを見逃さないよう注意を払っている。異変に気付いた際は、管理者、看護師に連絡、報告を徹底し、医師や家族への連絡も行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用副作用などの説明書は、個々のカルテや、ファイルに綴じ職員がいつでも確認できるようにしている。また、お薬手帳にも小まめに貼付している。また、薬一覧表も作成し、薬の仕分けも一覧表を確認しながらできるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならない様、利用者が好まれる飲料で水分補給を行い、毎朝飲むヨーグルトをお出ししている。食事でも、食物繊維が豊富な食材を用いたりと排便を促す工夫をしている。また、日中腰掛けられ、過ごされる方も、階段昇降や、散歩にお誘いし、体を動かして頂いている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床後は必ず、洗面と一緒に嗽をして頂いている。食後は、歯磨きの声かけを行い虫歯予防と口腔内の清潔に努めている。また、毎週1回、歯科の往診があり、口腔ケアや、治療などを行っている		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加が著しくある方は、食事摂取量の調整を行い糖尿病などの疾病に繋がらない様に努めている。また、管理栄養士の献立作成のもと調理している。栄養士も勤務している為、バランスの良い食事を提供できている。水分摂取量も小まめな記録を行い、利用者の状態に適した栄養や水分摂取量を摂る支援をしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の研修に参加し、施設職員全体の研修を行い、感染予防に努め、感染マニュアルの見直しや、掃除マニュアルの再検討を行い、実行している。感染予防に関し、職員の手洗い、消毒の徹底と、職員出勤後の体温計測をし、記録も行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のために調理器具は肉・魚類と野菜類に別け、肉・魚類を使用した器具の処理は、毎日、毎回必ずハイターに浸け消毒を行っている。安全に食事を摂って頂く為、生野菜もできるだけ湯通しを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に金魚を飼育し、育成を楽しめるようにしている。建物周囲には季節の花や植物を植えて年中楽しめる工夫と、駐車場も設けているので家族や近隣の方等気軽に出入りできよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽が直接あたるトイレには、フレンチカーテンをするなど、全て遮光せず心地よい光があたる工夫をしている。また、ベランダは、両ユニットが繋がっている為、共有して季節の野菜や花などを育てている。		幹線道路に沿っているので、道路工事や、緊急車両の音等が絶えず聞こえている。特に夜間帯での工事の音で、目覚められる方もある為、音に関しての配慮に取り組んでいきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、リビング内に、多数でくつろげるソファを設置し、ベランダには、一人でもくつろげるベンチシートを置き、植物など見ながらそれぞれに過ごせる環境を整備している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていたタンスや仏具など居室へ持ち込んで頂き、本人の個性を活かせ、居心地がよく過ごせるように工夫している。また、思い出の品や使い慣れた布団等を使って頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置し、適宜気温調整を行い、24時間換気をすることで、空気の澁みを配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー化した住居に設計しており、設置してある手すりを使用し安全にできるだけ自立した生活が送れるように必要な福祉用具を検討するなど工夫を行っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の理解力把握に努め、その方々に合わせた声かけに工夫を行い、できる事をして頂き、職員が共にすればできる方には、過剰に介助するのではなく、声かけなどで、なるべく自立して過ごして頂くように努めている。		新入居者も居られるため、センター方式を活用し、情報収集を行いながら出来ること、できないことの把握に努めていきたい
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上庭園に畑を利用者として作り、植物や、野菜を植え、農作業をしたり、生育を楽しんだり出来るようにしている。ベランダにも鉢やプランターなどで花や、ネギ、香草などを植え、生育を利用者が常に楽しめ、またねぎなどは食材として使用している。他にも、ソーメン流し等でベランダを使う事もある		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域とのより深い連携ができるよう地域運営推進会議だけでなく、夏祭りや餅つきなど年間行事にもお誘いし地域密着型をモットーに取り組んでいる結果、校区での行事や町内清掃にも声が掛かるようになり、近隣の幼稚園や保育園からの訪問やボランティアの訪問も増えてきた。閉鎖された施設じゃなく開放的な施設になっている。また、職員が地元消防団と関わりを持つ事で地域との関わりが広がっている。また、屋上庭園がある事により、緑化運動を進め、屋上庭園を活かし菜園や花の育成お茶会等の催しを楽しめる環境を作っている